



医療法人社団 城東桐和会 タムス浦安病院

所 在 地：〒279-0023 千葉県浦安市高洲7-2-32

病 床 数：199床

- 回復期リハビリテーション病棟：134床
- 地域包括ケア病棟：44床
- 緩和ケア病棟：21床

診療科目：内科／リハビリテーション科／緩和ケア科／精神科／耳鼻咽喉科
※精神科、耳鼻咽喉科は休診中です。

施設概要
お車を
ご利用の場合

- 首都高速湾岸線 「浦安出口」車で約10分
- JR京葉線 「新浦安駅」より車で約10分

アクセス
公共交通機関を
ご利用の場合
(バス)

- JR京葉線/武蔵野線 新浦安駅 南出口 バスロータリーから東京ベイシティ交通バス 約15分
- 19系統「高洲海浜公園行」「浦安南高校・特養ホーム」下車
- 15系統「(東京学館前・高洲経由)潮音の街・高洲海浜公園行」「高洲海浜公園」下車 (徒歩3分)
- 18系統「(高洲橋経由)潮音の街・高洲海浜公園行」「高洲海浜公園」下車(徒歩3分)
- 28系統「(海園の街経由)潮音の街・高洲海浜公園行」「高洲海浜公園」下車(徒歩3分)
- おさんぽバス「じゅんかい線(いちょうルート・つつじルート)」タムス浦安病院下車(約30分)

TEL.047-312-6765 FAX.047-312-6766



医療法人社団 城東桐和会

タムス浦安病院

回復期リハビリテーション病棟

地域包括ケア病棟

緩和ケア病棟

Harmony of Community and Advanced Rehabilitation-Care

理念と基本方針

先進的な医療と地域との密接な連携により新たな地域医療を展開・実践し、
眞の多職種協働と効率の良い経営・運営を行い、
本人・家族・職員・地域のよりよい生活とより豊かな人生を支える
次世代を担う人材の育成に努める。

院長挨拶

社会の高齢化が進む中で、高齢者に多い脳卒中や骨折からの「機能の回復」、また今後増加するガンに対する「疼痛コントロール」などの医療機能へのニーズが高まっています。そこで、地域医療への新しい試みとして、浦安市と千葉大学医学部附属病院、そして病院事業者として桐和会グループが連携し、回復期から慢性期といった急性期以降の医療（回復期リハビリテーション、緩和ケア、地域包括ケア）を守備範囲とした、タムス浦安病院を2019年4月に立ち上げました。

タムス浦安病院は、医療提供を行なうのみならず、千葉大学病院浦安リハビリテーション教育センターを併設し、千葉大学との連携を基に、先進医療の研究と提供、その成果の地域医療への還元、そして医療人材の育成をも担う先進的、複合的な役割を持つ医療機関です。

このような特徴を最大限に生かして、タムス浦安病院は、浦安市のコミュニティとの連携を基に、良質で安全な医療を提供し、また健康的な生活を支援してまいります。

院長 森 芳久



医療関係の皆様



タム浦 Café・浦安地域連携の会

当院では医療機関の皆さんにもっと tums 浦安病院を知っていただくために、定期的に「タム浦 café」を開催しております。内容として、回復期リハビリテーション病棟の説明、地域包括ケア病棟の利用方法の紹介、リハビリテーション室の先進医療機器の説明など様々な講演を準備させていただいております。

講演後は交流会なども準備しているため、気兼ねなく質問等も可能です。

詳しくはこち

https://tums-urayasuhp.jp/medical_personnel/medical/cafe.html



病院概要

名 称：医療法人社団 城東桐和会 タムス浦安病院
所 在 地：千葉県浦安市高洲7丁目2番32号
院 長：森 芳久
病 床 数：199床
回復期リハビリテーション病棟 134床
地域包括ケア病棟 44床
緩和ケア病棟 21床
開 院 日：2019年(平成31年)4月1日
T E L：047(312)6765 (代表)
047(702)9181 (地域連携室)
F A X：047(312)6766
047(702)9685 (地域連携室)
診 療 科 目：内科／リハビリテーション科／
緩和ケア科／精神科／耳鼻咽喉科
※精神科、耳鼻咽喉科は休診中です。
敷 地 面 積：約25,000m²
建 物 延 面 積：約9,680m² 4階建
駐 車 場：82台 (患者用)



病棟紹介



回復期リハビリテーション病棟



回復期病棟は、疾患等で障害が残った場合や手術等で体力低下により生活に支障が生じた場合に、集中的にリハビリをして機能回復を図る病棟です。当院の特徴として、別の階の広いリハビリ室に加え、各病棟にもミニリハビリコーナーを設けています。看護師やケア

ワーカーが自分の担当患者さまのリハビリ訓練の様子を見る機会があるのは、チーム医療を行う上で非常に重要で、カンファレンスがスムーズになります。



緩和ケア病棟



緩和ケア病棟では最期までその人らしくいられるよう、苦痛の緩和を図り、精神的な支えになれるよう努めています。尊厳を大切に、ご要望に応じてリハビリも行います。

また、病棟に季節の彩りを加え、レクリエーションなどで心の安らぎや楽しみの時間を持っていただけるよう工夫しています。



地域包括ケア病棟



地域包括ケア病棟は、地域のみなさまがご家族とともにより良くより豊かに生活が送れるよう、在宅復帰を中心とした支援を目的とした医療・ケアに特に力を入れています。

また病棟では「笑顔」を絶やさず患者さまと関わることを大切にして

多職種で協働しており、活動では病棟生活が少しでも豊かなものになるようにゲームを取り入れたりハビリテーションや季節を取り入れたレクリエーション等にも力を入れて取り組みを行っています。

地域連携室



地域連携室とは

急性期病院や在宅医療、地域の皆様とのつなぎ役を行っている部署です。

具体的な役割

入院相談

患者様のご状態や希望を伺い、ご入院までの流れや見学、面談等を対応いたします。
直接のご来院、又は電話でお受けしておりますが、お待たせしないために事前にご連絡をいただくことをお勧めします。

看護・医療福祉相談

病気や怪我をきっかけとして生じる様々な問題に対し、看護師及びソーシャルワーカー等が対応させていただきます。医療費や制度の事、退院後の生活の事等療養に関してのご不安を聽かせてください。相談費用は頂いておりません。

広報活動

地域の支援者向けに定期的に勉強会を行っております。

直通電話

047-702-9181

直通FAX

047-702-9685

【受付時間】月～土／9:00～17:00

ご不明な点がございましたら
地域連携室までお問い合わせください



**regional
liaison
office**

■ 入院までの流れ

1 入院相談

現在ご入院中の方はご入院先の相談員よりお電話ください。
その後、診療情報提供書・血液検査データ・感染症データ・ADL票等をFAXでお送りください。
【地域連携室直通】047-702-9181 【直通FAX】047-702-9685
ご入院以外の方は、ご家族、又はケアマネージャーよりお電話ください。

2 受入検討

医師と確認の上、お受け入れについて検討、返答をさせていただきます。

3 手続きのご案内

ご来院、又はお電話で入院手続きについて説明いたします。

4 日時決定

ベッドを調整の上、日時をご連絡いたします。

5 ご入院

当日は、「総合受付」においでください。病棟看護師が受付までお迎えに参ります。

■ 入院生活について

起床



6:00

7:00

午前のリハビリテーション



8:00

9:00

10:00

11:00

12:00

13:00

14:00

15:00

16:00

17:00

消灯



21:00

朝食



午後のリハビリテーション



18:00

19:00

20:00

外出・外泊

主治医、看護師に相談の上、所定の上にご記載ください。感染症等の流行により制限させていただく場合がございます。また、やむを得ない場合以外はご入院中に他院を受診することはできません。必要な方は、事前に主治医へご相談ください。

病室

各床頭台にTV・冷蔵庫・セーフティーボックスが設置しております。各階にテレビカード販売機を設置しております(1枚1000円)両替機はございませんので、予めご用意下さい。テレビカード1枚でテレビと冷蔵庫がご利用いただけます。多床室の方はイヤホンをご準備ください。

リハビリ

リハビリ室、病棟で行います。時間は日々によって異なります。退院後の生活をイメージしていただくためにも是非ご覧ください。ご希望がございましたら時間等の調整をいたしますので予めお申し出ください。(ただし、感染症の流行等で制限をさせていただく場合がございます)また、定期的にカンファレンスを開催し、病状説明やリハビリの進捗をお伝えさせていただきます。

退院支援

入院期間は患者様の病状等から主治医が判断いたします。ご自宅で安全に過ごしていただくために、ご自宅の環境の確認(写真提供や自宅訪問等)のご協力をお願いします。また、必要に応じ退院後の支援者の皆様とカンファレンスを開催させていただきます。



理学療法 Physical Therapy

理学療法部門では、最新の機器を用いて歩行や動作を科学的に分析し、1人1人の患者様のニーズにあったリハビリテーションを提供します。



ゲイトジャッジシステム

足や装具に自身の体重や床から生じる力や関節の角度、筋電図を計測することにより歩行障害などの原因を視覚化し、科学的に分析するための装置です。



免荷機能付きトレッドミル

足の麻痺などで自身の体重を支えられない患者様のための歩行練習機器です。

POPO(免荷式歩行器)

リフト機能で安全に立ち上がり、免荷機能で負担を軽減して歩行練習を行うための機器です。



作業療法 Occupational Therapy

タムス浦安病院では、基本的動作能力、応用的動作能力、社会的適応能力を獲得し、高めていくリハビリテーションを提供します。

そのための機器をいくつか準備しており、最新の機器をご紹介します。

基本的動作能力



運動や感覚・知覚、心肺や精神・認知などの心身機能

応用的動作能力



食事やトイレ、家事など、日常で必要となる活動

社会的適応能力



地域活動への参加、就労・就学

その人なりの、その人らしい生活を「作業」を通じて作っていきます

基本的動作能力の向上へ〈手の機能の再獲得〉

アイビス、パスリーダーとともに、手などの筋肉を刺激する機器です。アイビスは電気でパスリーダーは磁気により刺激を加えます。筋力の低下や麻痺している筋肉に効果的な刺激を与え、ご自身の運動を援助してくれます。

IVES(アイビス)

基本構造は、一般的な低周波と同じです。
特徴は、筋肉の動きを感じて、そのタイミングで刺激をくれます。
あたかも自分で動かしているような学習ができます。

Pathleader(パスリーダー)

この機器は、パルス磁場による誘導電流を用いた「電極を使用しない電気刺激」です。
このような末梢神経磁気刺激は、高頻度磁気刺激装置の登場により、新たなニューロモジュレーション技術として注目されています。

社会的適応能力の一助に運転支援

車の運転は、社会生活を営むための必要な交通手段の一つです。
当院では、ドライビングシミュレーターを完備し、より実践に近い形での運転練習ができます。



チーム医療



当院は、回復期病棟・地域包括ケア病棟・緩和ケア病棟の3つの病棟があり、全ての病棟で、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・介護福祉士・栄養士・臨床心理士・社会福祉士が常に連携をとり、社会復帰に向け、可能な限り最高の日常生活動作を実現できるよう、患者様にとってより良いリハビリテーションを考えております。

当院の多職種連携の紹介

各部署の専門性に特化したスタッフでチームを組み、回診（ラウンド）を行うことで、入院期間中・退院後により良い生活が行えるよう患者様をサポートしています。
その取り組みの一部をご紹介いたします。



ミールラウンド VE/VF(NST)

摂食嚥下障害や栄養に力を入れており多職種で連携し活動を行っております。嚥下障害の患者様には積極的に VE(嚥下内視鏡)、VF(嚥下造影検査)を実施しています。毎週木曜日にミールラウンドとして実際の食事場面を確認し検査の必要性の検討や検査後の状況の確認、新入院患者様や問題症例の情報共有を行っています。(NSTは月に2回低栄養の患者様やリハビリを実施するにあたり必要な栄養が与えられているかなどの検討を行います。)

teams



医師

医師、看護師をはじめ様々な職種がチーム一体となって患者・家族の皆様をサポートします。



薬剤科

院内の内服薬・外用薬・注射薬の調剤やそれに伴う医薬品管理、医薬品情報の収集と周知ための業務を日々行っています。
必要に応じて病棟に出向き、服薬指導も行っております。薬剤師単独ではなく、看護師や栄養士と一緒に実施して服薬指導の場面でも多職種連携を図っております。



看護師

患者さまの生きるチカラを引き出し、支えるために看護師は常に新しい知識・技術を吸収し、自己研鑽とケアの質の向上に努める必要があります。看護師同士はもちろん、多職種と協働し、ともに考え、ともに行動できる看護部でありたいと考えています。



臨床検査
技師

医師が患者様の診断をしたり、治療の方針を決めたりする際に不可欠な「正確で精密な検査データ」を迅速に届けるため、臨床検査の専門家として働くメディカルスタッフです。
医師・看護師・セラピスト・コメディカルスタッフと多職種での連携をはかっており、臨床検査という視点から患者様の診断に尽力しています。



理学
療法士

千葉大学病院浦安リハビリテーション教育センターが併設し、教育と研究に力を入れており、浦安市と連携をはかりながら、地域医療における中心的な役割を目指します。



放射線
技師

放射線科では診断に必要な放射線を使用した検査を行っております。
患者様の被ばく、苦痛を最小限に抑えられるように努めて参ります。
被ばく、撮影方法に関してのご質問等ございましたらお気軽にお声掛けください。



管理
栄養士

患者様の栄養状態を把握し、主治医・看護師・リハビリスタッフなど多職種と相談し、食事調整を行い、栄養改善をサポートしています。また、個々の患者様に合わせ食具を調整した自立支援の取り組みを行い、さらに、衛生管理も徹底し、患者様が安心して食事ができるように心がけています。



ケア
ワーカー

病院の中で、自立支援を目指すと共に、個別性の高い生活の継続に働きかけます。季節行事やレクリエーション、飾りつけなど、生活の潤いに力を発揮しています。当院のケアワーカーは介護福祉士が約55%を占めています。

褥瘡(床ずれ)ラウンド

入院全患者に対し入院時より毎週ブレーデンスケール（褥瘡発生リスク）を用いた評価を行い、状態に応じた予防策を実施しています。褥瘡を発見した際は、DESIGN-R（褥瘡重要度分類）による評価を毎週火曜日に看護師が行っています。褥瘡ラウンドは月2回、医師、看護師、理学療法士・管理栄養士を中心に褥瘡改善に向け、予防策の再検討・薬剤の検討・リハビリでの活動量等を実際に患者様の状態を確認しながら評価しています。



委員会活動



ICT活動について

当院でのICT活動の一環に、院内ラウンドがあります。これは、感染対策加算2を取得するうえでも必須活動となっています。内容としては、医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師の4種職が週に1回、院内のラウンドを行うことです。
手指衛生が適切な場面で適切に行っているか・医療廃棄物が適切に廃棄できているか・個人防護具が適切に着脱できているか・感染症病室の対策が適切に行っているかを観察ポイントとして行っています。